巻頭特集

子どもたちが楽しみながら成長できる「家」がある 団欒長屋（だんらんながや）プロジェクト

いつも子どもたちの笑い声が絶えない『団欒長屋』は、保育所や学童保育を営み、時にはママたちの憩いの場にもなる。レトロな一軒家で、地域で暮らす様々な年代が集う子育て交流スペースだ。

「多世代でつながる子育て空間」ができたきっかけ

一昔前の子育て環境には〝向こう三軒両隣、困ったことがあったらお互い様〟という、ご近所同士が助け合う関係が当たり前に存在していた。「私は、隣近所の人たちに、温かく、時には叱られながら、下町で育ちました。そんなふうに人の子も自分の子も地域みんなで見守り、育てていく〝長屋暮らし〟のようなイメージで、この昔ながらのおばあちゃんのおうちみたいな場所を選んだんです」と話すのは、乳幼児保育や学童保育を行う『団欒長屋プロジェクト』の代表、渕上桃子さん。

渕上さんはシングルマザー。現在小学1年生になる女の子がいる。「6年前に豊中へ越してきたばかりの頃は、生活のために、仕事と子どもの預け先を探す毎日でした。就職後は、仕事と保育所、家との往復の日々。娘にはもっとたくさんの大人と接して、いろいろな価値観を身につけて欲しいと思っていたけれど、地域の方と関わる時間なんて全くありませんでした」と当時を振り返る。

この経験を機に、頼れる人が近くにおらず、預け先や育児の悩みを一人で抱えるママたちが安心できる場を作ろうと、2013年、プロジェクトを立ち上げた。

自分たちで考え、答えをみつけていく

『団欒長屋プロジェクト』では、平日に『団欒保育舎』、土曜日に『団欒学童舎』を運営しており、遠方からの利用者も多い。保育舎に乳幼児が来ると、2・3歳の子たちが「赤ちゃん、かわいいね」と年上らしく優しく接する光景も。土曜日は、朝8時前に来て、開園を待ちわびる子もいる。「ボランティアスタッフの学生も一緒に開園を待っていることもありますよ」と渕上さんは笑顔で話す。

スタッフには上海からの留学生もいて、昼食に彼が郷土料理を作ったり、その後は子どもたちと百人一首で遊ぶことも。普段の何気ない生活の中で、異文化交流が生まれている。また、ここで出会ったスタッフ同士が結婚した時は、子どもたち手作りの「披露パーティー」が行われた。大好きなふたりのために、飾りつけや余興など、全部子どもたちが発案し進行。泣いて笑って、みんなの思い出に残る1日に。「この仕事をやってよかったなと思う瞬間ですよ」と本当に嬉しそうに話してくれた。

何かをする時は、子どもの自主性に任せることを心がけている渕上さん。豊中産のレモンでレモネードを作って売る体験学習『豊中こどもれもねいど』では、収益の半分は頑張った子どもたち自身の〝給料〟に、そしてもう半分は『団欒長屋』へ贈られた。その使い道も自分たちで考えさせた結果、赤ちゃんから小学生までが遊べるハンモックを購入。このような話し合いの中で、自分の意見を主張しつつ、人の意見も受け入れる力が自然とつく。

家族のような関係の中で、多様な考えに触れ、貴重な経験もできる特別な場所だ。

代表
渕上 桃子さん

子どもたちから「モモ」と呼ばれ親しまれている。娘さんが仕事の一番の理解者だ。

地域の人たちを取材してみんなで作る新聞

今月から、『だんらんしんぶん』11号の制作準備に取り掛かる。同紙は『とよなか夢基金』の助成事業として創刊。「大人が読んでも面白い学級新聞」がコンセプトだ。記事には地域のお店紹介や地元の方へのインタビュー、イラストや漫画など内容盛りだくさん。ママたちも、各々の得意分野を活かして、編集をサポートすることも。家族一緒に楽しめるのが、『団欒長屋』の良いところ。

ミーティングでは構成や取材先、またカメラマン、似顔絵描きなどの役割を、新聞制作に関わる「子ども記者」たちで決める。取材は子どもならではの質問が飛び出し、引率のボランティアスタッフたちはヒヤヒヤ。でも取材を受けるみなさんは温かく答えてくれる。製本や配布も子どもたち自身で行う。以前、出来上がった新聞を100部持ち帰り、駅前で手配りした子もいたそうだ。自ら発信し、表現したものが形になった喜びはひとしおだったに違いない。

働くママや育児に悩める人たちをサポートし続ける

同プロジェクトでは、ほかにも様々な子育て支援を行っている。乳幼児のママが貴重な一人の時間を楽しめる『だんらんおざしきカフェ』。編み物、ネイルといった趣味や、おしゃべりなど過ごし方は様々。定期的にベビーマッサージのイベントも行っている。『ホームサポーター』では、各家庭に赴き、簡単な家事やベビーシッター業務を引き受けている。どちらの取り組みも、育児に追われるママたちが息抜きできるひと時を提供している。「何もかもお母さんが一手に引き受けず、どんどん家庭の敷居を下げてほしい」と渕上さんは話す。今後は『はぐくみホーム』という里親制度にも参加し、さらには認可保育所の設立も目指すという。

なぜこんなにもバイタリティに満ちた行動が次々に起こせるのか。「苦労が苦労じゃないんですよ。すべて報われる大変さなんです」。取材中、一番印象に残った言葉だ。

これからの季節はイベントが目白押し。去年は流しそうめんやスイカ割り、キャンプ、プールなどを地元の人たちや、ボランティアに来てくれた『大阪府立豊中高校』の生徒たちと楽しんだ。大人も子どもも笑顔になれる『団欒長屋』。そこは、育児を頑張るママたちに優しく寄り添う子育て空間だ。

取材協力

団欒長屋プロジェクト

豊中市蛍池西町 1-3-32

● アクセス
阪急宝塚線、大阪モノレール
「蛍池駅」徒歩５分

● MAIL
danran.nagaya@gmail.com

● ＨＰ
http://danran-nagaya.blogspot.jp

TEL. 06-6836-9011

文／阪中 愛子　デザイン／小林 右子　写真／Ayami　写真提供／団欒長屋プロジェクト